



園だより

文京区立第一幼稚園
令和4年度7月号

URL <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/dai1-kg/>

自然との出会いを通して育つもの

園長 田村 秀子

今年はやい梅雨明けとなり、夏本番の日差しの日々が続いています。子供たちが植えたキュウリやトマトなどの夏野菜もぐんぐん育ち、たくさん収穫できそうです。藤棚の下の砂場や屋上のプールからは、楽しそうな声が聞こえます。

ここ数年は感染予防のためプール遊びがあまりできなかったこともあり、プール遊びに不安を感じる子供もいました。そこで年長児が水着を着て水のほとんど入っていないプールの中に入り、小さなスポンジでプール掃除をする活動を行ったところ、水に触れる心地よさや楽しさを感じ、プールの大きさや質感など全体像を子供なりに理解して安心したようです。今はマスクをはずして少人数で、交代しながら伸び伸びと、楽しくプール遊びをしています。

さて、第一幼稚園では、特色の一つとして自然との関わりを大切にしています。今は写真や映像で多くの知識を得ることができますが、幼児期は実際に実物を見たり触ったりすることで心が動き、感動し、様々なことに気付く力が育つからです。様々な樹木や草花、実のなる木々が植えられた園の環境を生かし、子供たちが自分からよく見たり関わったりできるように、日々環境を工夫しています。

5月。ダンゴムシに興味をもった子が「ダンゴムシほしいけど触れない。先生、とって」と言ってきました。「大丈夫だよ。触ってみれば？」と言うと「丸まっているのは触れるけど、ゲジゲジってなっているのは触れない」と言います。すると近くの友達が「はい。あげる」とその子の手に乗せてくれました。初めて手に乗せたダンゴムシ。「わー、ちょっとくすぐったい。でもなんかかわいい」と感じた子は、ペットボトルの虫かごにダンゴムシを入れ、帰るまでずっと近くに置いて見ていました。

6月。田舎で捕ったカエルを空気穴を開けた衣装ケースに入れ、持ってきてくれた保護者がいました。朝の会が終わった頃、私が保育室にケースを持って行き、フタを開けると、「わー、カエル！」「ここにもいる！」と大騒ぎです。「知ってる。ニホンアマガエルだよ」「カエルには毒があるんだよ」と教えてくれる子もいました。知識として知っていても実際に見たり触れたりすると、子供たちは目を輝かせます。目の前で大きく跳ぶカエルを見て「こんなに跳ぶんだ！」と驚いたり、つかまえようとしてもつかまえられるカエルに「わー、とれない」とすばしこさを感じたり、カエルが手足を伸ばして壁を登る様子を見て「手がこうなってるから登れるんだ」「足がながーい」と新たな発見をしたりしていました。カエルのイメージがぐっと広がったようです。

またある日、自分の背丈近くまで伸びたミニトマトの葉っぱに触ったり、「これもちっちゃいけど、トマトだ」と青いトマトに触ったりしていた子が、ふと自分の手の匂いに気付き、「わーぼくの手、トマトの匂い！」「私もだよ、ホラ」と驚き合う姿がありました。

日々変化し、自分の予想とは違う姿を見せる自然との出会いを通して、子供たちは心を動かし、様々なことに気付き、イメージをため込んでいきます。身体諸感覚を通して感じたことは深く心に残り、深く学ぶことにつながっていきます。集中して見たり、探したり、理由を考えたり、子供たちは日々育っています。これからも一人一人の気付きに寄り添い、一緒に面白がっていきたいと思います。